（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	総合育成カレッジ未来館（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和７年　２月　２６日	～	令和７年　３月　３日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）　6		（回答者数）　4
○従業者評価実施期間	令和７年　２月　２６日	～	令和７年　３月　３日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）　5		（回答者数）　5
○事業者向け自己評価表作成日	令和７年　３月　９日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	理学療法士や保育士が在籍しており、様々な視点で療育を行う事が出来、お子様に合わせて個別や小集団での対応を行っている。	専門職によるアセスメントを行いながら、個別での対応を行ったり小集団では様々な視点でお子様に合った療育を提供している。	専門職が中心となり、活動内容等を様々な視点からの要素を取り入れる事で職員全体のスキルアップを行っていく。
2	屋内人工芝が併設されている事もあり、天候に左右されず安全に運動を行う事が出来る。	広いコートで行う事により、様々な活動を行う事が出来る為、お子様の運動特性を把握し支援している。	課題や療育をより充実させる為に道具の種類を増やす。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	LINEや連絡帳で保護者様へ情報共有は行っているが、対面での相談や援助、療育場面を直接見る機会が少ない。	運営上の時間的・人員規約があり、見学会や交流会の企画・実施が難しい現状にある。	定期的な見学会の実施を行い、お子様の発育状況や様子の共有を行う。個別相談会の実態を行い、保護者様の悩みに寄り添いながら支援を行う。
2	集団や課外活動等の社会性を育むための活動が少ない。	人員数による安全性の不足や時間的な規約がある為、加害活動等の実施が難しい状況である。	祝日や長期休暇の機会を利用して社会参加の機会を作っていく。課外活動を行う上で事前の学習の実施等を行う事で社会参加を支援する。
3			

（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	総合育成カレッジ未来館（児童発達支援）

公表日　令和７年　３月　１２日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	1		トイレのみバリアフリーではない為、すぐに設置できるスロープ等を準備する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		手が空いている時はこまめに消毒や掃除をしている。感染症が流行している時期は加湿したり、いつも以上に消毒を心がけている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか 。	5		活動後に余暇時間を設け、お子様が好きな空間で過ごせるよう配慮し、職員を配置している。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		気づきや意見は当日の内に報告し、話し合うように心がけている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか 。	2	3		誰でも閲覧できるようにウェブ上で公表する。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		記録を振り返りながら職員全体で話し合い、適切なアセスメントを行う事を心がけている。個別にお子様本人と話し、気持ちや希望を尋ねる機会を作っている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		作成前には職員全体でお子様の様子を話し合い、現状と今後について一緒に考えている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	1	個々の担当日を決めスケジュールを職員同士で話し合い、立案している。必要に応じ、職員同士が相談し合って作り上げている。	主の職員から活動前に内容の共有や再確認等の時間を作る。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		本やWEB等も活用しながら、季節や行事、お子様の成長や経験に合わせて考案している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		お子様に必要と考える療育内容を専門的支援実施などを利用しながら個別もしくは小集団で定期的に行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	1	個別で配慮が必要なお子様の情報の共有や配置等を事前に伝達している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	4	1	支援記録を入力する際に気づきを共有したり、気になる点を報告・確認し合うようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	1		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		園と事業所での様子を共有し、必要に応じて見学に行かせて頂き、情報交換を行いながら支援内容を話し合っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		必要に応じて連絡を取ったり、移行支援シート等を作成し、共有している。	
	28	（28～30は、センターのみ回答） 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	／	／		
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	／	／		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	／	／		
	31	（31は、事業所のみ回答） 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか 。		5		センターがない為、相談支援事業所とやり取りをしている。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		5		祝日などを利用してマルシェを開催し、子供向けのイベントを企画する。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		連絡帳やLINEなどでその日の出来事や気づき・課題について伝達し、状況に合わせて保護者様や相談支援専門員様と話し合う機会を設けている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	4	研修などの機会は設けていないがご家庭での様子を伺ったり、事業所での様子などを共有し、違った視点から見る機会を作る事でお子様の可能性を見出してもらえるような助言を心がけている。	職員同士で情報共有は行っているが、対応する職員が限られている為、誰でも対応できるように職員全体での研修会やご家族と関わる機会を設ける。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか 。	5			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		相談がある場合は電話対応や来所してもらい、対応している。必要な場合は関係機関や相談事業所と連絡を取り、解決へ向けて話し合う場を作っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		5		現在は実施していないが、今後、ご要望に応じて活動の様子を見学して頂く機会を作る。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		申し出があった場合、迅速に会議を行い、職員の配置や関わり方など対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5		以前はマルシェを実施していたが、コロナによりしばらくお休みしていた為、再開できるように年1回でも企画していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		服薬や予防接種などあった場合は保護者様からお知らせを頂き、その後の状況等を定期的に確認するようにしている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		アレルギーの調査を年1回行い、把握に努めている。保護者の方より指示書を提示して頂き、職員全体で共有している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	5			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		都度、職員間で対策を話し合い、改善方法を見つけ、実施している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		定期的に研修を行っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5			